

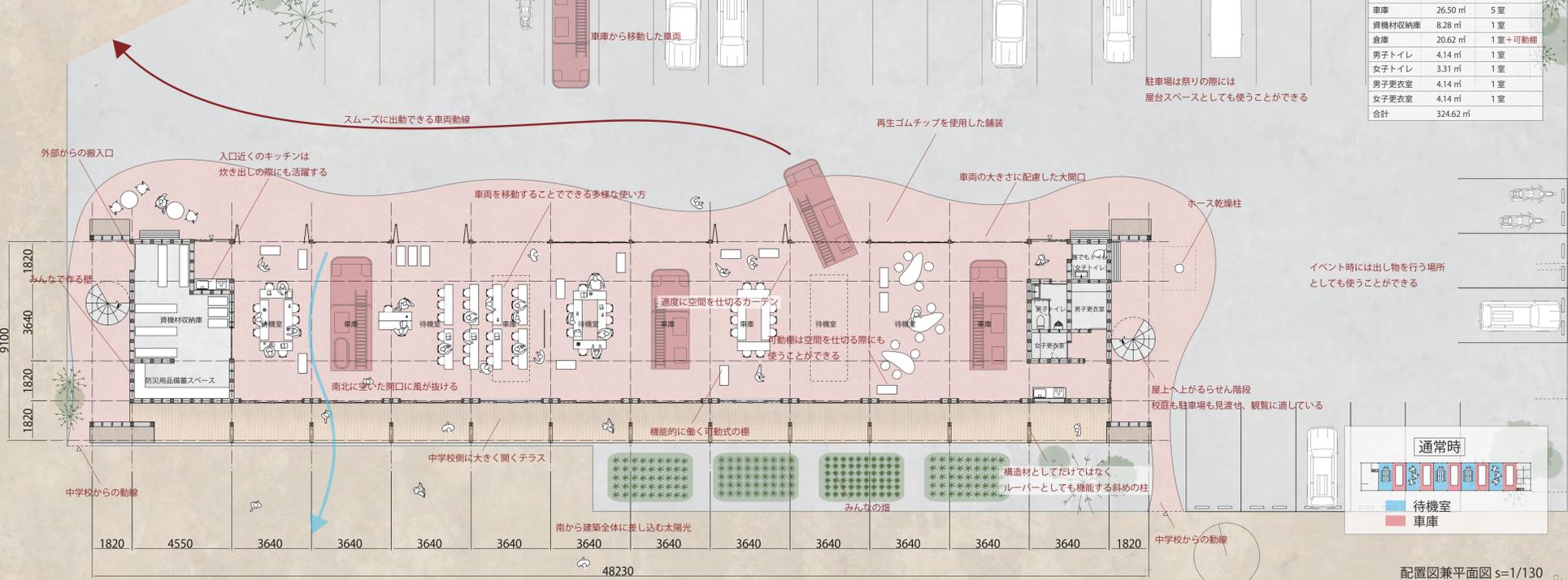
# 『ひとつつながる』消防屯所

集約される消防屯所が地域の多様な活動と『つながる』ことで消防団員の活動が開かれ、人と人が『つながる』ことで、みんなで地域を守り、地域に愛される消防屯所を目指します。また、多様な場面に対応するために、車庫と待機室がワンルームとなった、使われ方が可変する『ひとつつながり』の建築を提案します。



三原の風景と連続し周辺環境と『つながる』建築

## 地域と接続し可変する平面計画



待機室	26.50 m <sup>2</sup>	5 室
車庫	26.50 m <sup>2</sup>	5 室
資機材収納庫	8.28 m <sup>2</sup>	1 室
倉庫	20.62 m <sup>2</sup>	1 室 + 可動棚
男子トイレ	4.14 m <sup>2</sup>	1 室
女子トイレ	3.31 m <sup>2</sup>	1 室
男子更衣室	4.14 m <sup>2</sup>	1 室
女子更衣室	4.14 m <sup>2</sup>	1 室
合計	324.62 m <sup>2</sup>	

通常時	
待機室	5 室
車庫	5 室

## 『ひとつつながり』の細長い大空間



## 木造トラス構造による無柱空間



中学校側の日常に溶け込む消防屯所



カーテン・車両が間仕切りになり多様な使い方に



内外を接続する『ひとつつながり』のテラス

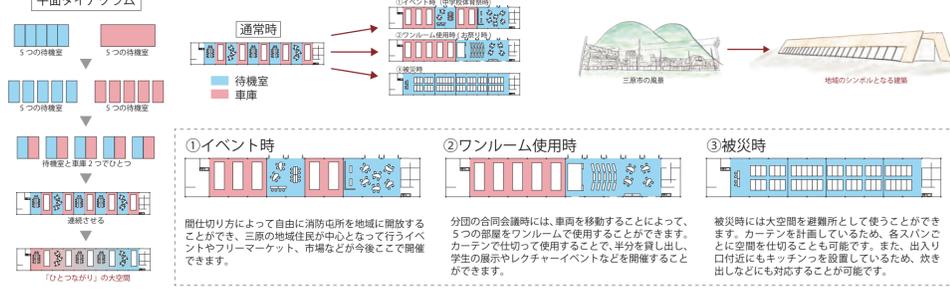
## 三原の活動と『つながる』消防屯所

三原市は、山と海に囲まれた自然豊かな場所です。また、市民が一体となった街を盛り上げる「やっさ祭り」「神明市」「浮城祭り」「さつき祭り」があり、地域が一体となり、何かをほすポテンシャルを多分に持っています。そんな三原市の人々の多様な活動と『つながる』消防屯所を設計することで、さらなる地域の行動を促します。これまで別々であった消防屯所を一つに集約する際に、単に機能的であるだけでなく、三原の多様な活動と『つながる』ことで、人と人がつながり、消防団員の活動が開かれ、みんなで地域を守っていく新しい消防屯所を提案します。



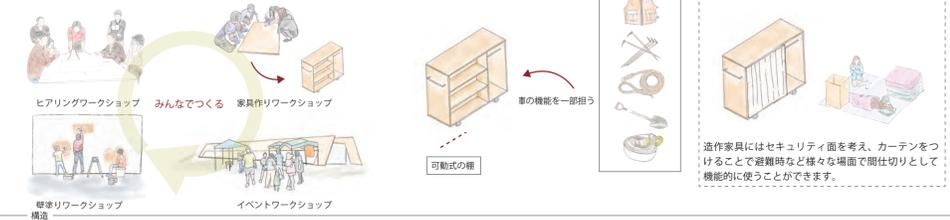
## 多様な使われ方に対応する建築計画

車庫も待機室も積載車とポンプ車の入る 3640×7280 の空間を一単位として横並びのシンプルな構成とすることで、平常時は、車庫と待機室の二つで一つの部屋として機能し、イベント時や全体会議時、防災時など車両を移動するだけで多様な使われ方に対応する建築計画とします。



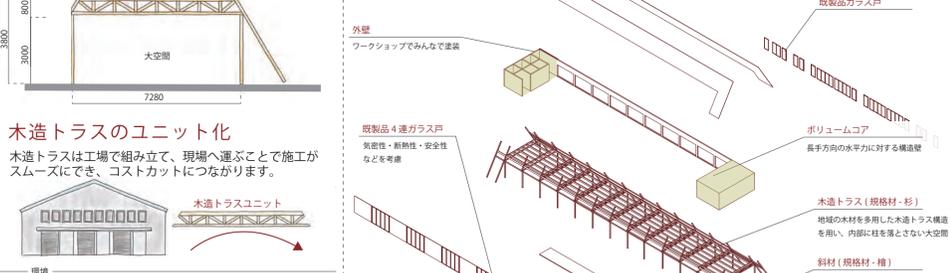
## 地域の人と一緒に作る建築

ワークショップを開催し、地域の人たちと壁の塗装や造作家具を施工段階から一緒に作ることで、より身近な消防屯所として、地域人々の拠り所となります。建築の計画段階から建築の竣工後まで建築に携わり使い方を一緒に考えたいと思います。



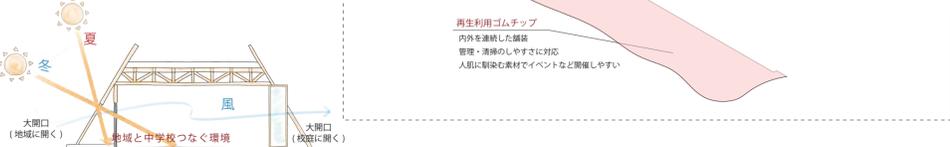
## 大空間をつくる木造トラス構造

地域の木材を多用した木造トラス構造を用い、内部に柱を落とさない大空間をつくることで、車庫としての空間性の確保と地域の多様な活動に柔軟に対応しやすい構造とします。



## 木造トラスのユニット化

木造トラスは工場でき組み立て、現場へ運ぶことで施工がスムーズにでき、コストカットにつながります。



## 環境に配慮した建築

建築躯体には、主に地域産の木材を多様することで、脱炭素化に配慮した建築を目指します。また、工事で出た木材の廃材は、ワークショップの際に家具への転用を試みます。床は内外連続してタイヤのゴムを再利用したゴムチップを使用します。外部には、中学校に貸し出す『みんなの畑』を作ることで地域の交流を促します。



## 単純な空間によるコストカット

シンプルな平面プランすることで作りやすく、間仕切り等が少ないためインシャルコストを削減することができます。また、ワンルームでゴムチップが外構と連続した床にすることで清掃等がしやすく、ランニングコストも削減できます。